

～文化的歴史的所産を巡る～

残したい情景

第29回 鹿児島県日置市



一般財団法人 日本不動産研究所

た後、敵陣中央突破によって撤退したことで知られる勇猛な武将であり、今年、没後400年を迎え、その遺徳が偲ばれている。

廃仏毀釈で廃寺

この史実にちなんだ「妙円寺詣り」という行事が、江戸時代から続いており、「曾我どんの傘焼き」、「赤穂義臣伝輪説会」と並んで「鹿児島三大行事」に数えられている。

「妙円寺詣り」は、関ヶ原の戦いの撤退戦の言語に絶する苦難を偲び、またその剛勇を慕って江戸時代にいつから

ともなく始まった行事で、鹿児島城下の武士たちが関ヶ原合戦の前夜にあたる旧暦9月14日に、鹿児島・伊集院間往復40キロを甲冑に身を固め、夜を徹して参詣したことに始まる。昨年大河ドラマでも描かれていたように、西郷隆盛や大久保利通も参加したようである。

「妙円寺」とは、義弘公の菩提寺であるが、明治維新期の廃仏毀釈によって廃寺となり、跡地には「徳重神社」が建立された。したがって、「妙円寺」は従前所在地の西方に再建されたものの、現在では

「妙円寺」とは、義弘公の菩提寺であるが、明治維新期の廃仏毀釈によって廃寺となり、跡地には「徳重神社」が建立された。したがって、「妙円寺」は従前所在地の西方に再建されたものの、現在では

描かれていたように、西郷隆盛や大久保利通も参加したようである。「妙円寺」とは、義弘公の菩提寺であるが、明治維新期の廃仏毀釈によって廃寺となり、跡地には「徳重神社」が建立された。したがって、「妙円寺」は従前所在地の西方に再建されたものの、現在では

地した江戸時代に鹿島一族が寄進した石灯籠なども現存し、厳かな雰囲気を出している。

なお、同神社南西方には義弘公が育った一宇治城跡（現在の城山公園）がある。この城は、フランシスコ・ザビエルがキリスト教布教の許可をもらおうと島津貴久公に謁見した城としても知られている。城跡である城山公

より多くの人が参加できるよう、10月第4週の土・日曜日に開催されるようになり、勇壮な鎧武者姿で参拝する武者行列保存会のメンバーのほか、軽装の一般的な服で歩く参拝者も多い。また、相撲、弓道、剣道等の武道の競技会も同時に開催されるほか、ステージイベントや屋台の出店など、イベントとしても盛大に開催されている。



鎧姿で参拝する武者行列保存会のメンバー

「島津に暗君なし」と言われるが、幕末の島津斉彬公と並んで特に有名な君主は、戦国時代から江戸時代初期にかけて活躍した島津義弘公である。義弘公は、関ヶ原の戦いに西軍の一員として寡兵にて参陣し、東軍の勝利が決し

関ヶ原の撤退忍ぶ「妙円寺詣り」

畏敬の念と精神を受け継ぐ

「妙円寺詣り」の参詣先として義弘公の木造が安置されている「徳重神社」を目指す人が大多数となっている。同神社は、鹿児島県日置市の中でも優良な住宅地が多く、商業施設も比較的多い伊集院地区に所在し、JR鹿児島本線「伊集院」駅からは徒歩圏に位置する。同神社の境内には、妙円寺が立

一般参加の行事へ

「妙円寺詣り」は、平和な時も油断なく、非常時に備え武を敬い重んじる気性とあらゆる苦難に耐え抜く精神を養成するのに恰好の行事として、明治時代以降は一般庶民も参加して、明治・大正・昭和

時代は令和に移ったが、妙円寺詣りはイベントとしての色合いを強めつつも、江戸時代から続く先人の労苦への畏敬の念といった精神性はしっかりと受け継がれていると感じられる。今後もこうした情景を次世代に引き継いでいってほしい。

93（平成5）年からは、和・平成と受け継がれてきた。93（平成5）年からは、

（鹿児島支所／不動産鑑定士・武田信一）



JR伊集院駅前に建つ島津義弘公の銅像



妙円寺跡地に建立された徳重神社社殿